

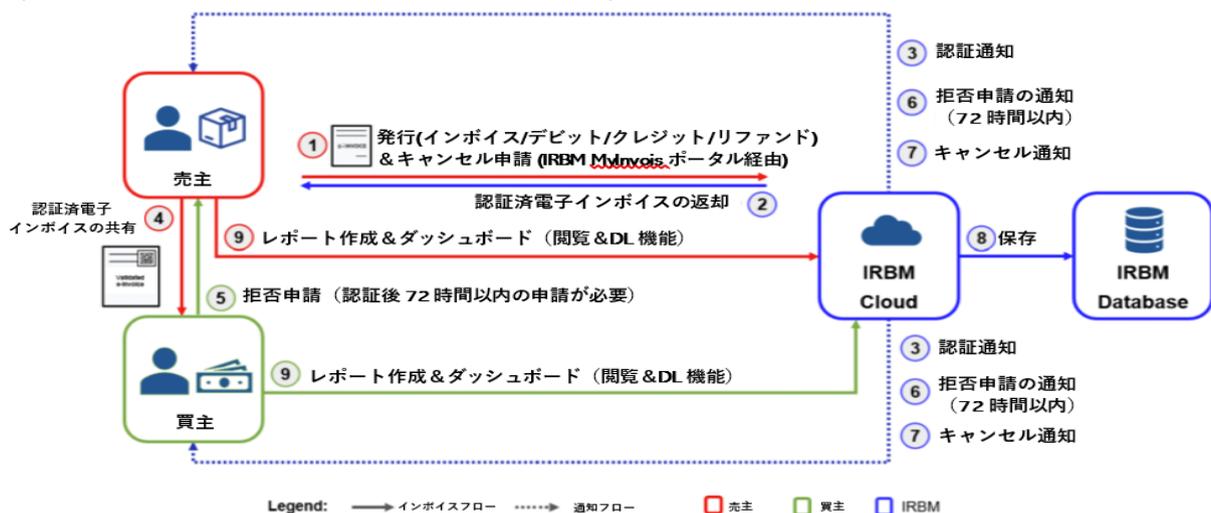


電子インボイス制度がもたらす会社への影響

電子インボイスの導入には、システムへの投資や従業員のスキルアップなど様々な準備が必要となります。その導入の過程で多くの問題や課題が伴う一方、事業プロセスの効率化やより透明性の高い取引の実現なども期待されており、いずれにしても中長期的に会社のビジネス実務に大きな影響を与えることになります。まずは自社のビジネス規模やニーズを把握し、それらに合った導入形態を選択して準備を進めることが大切です。

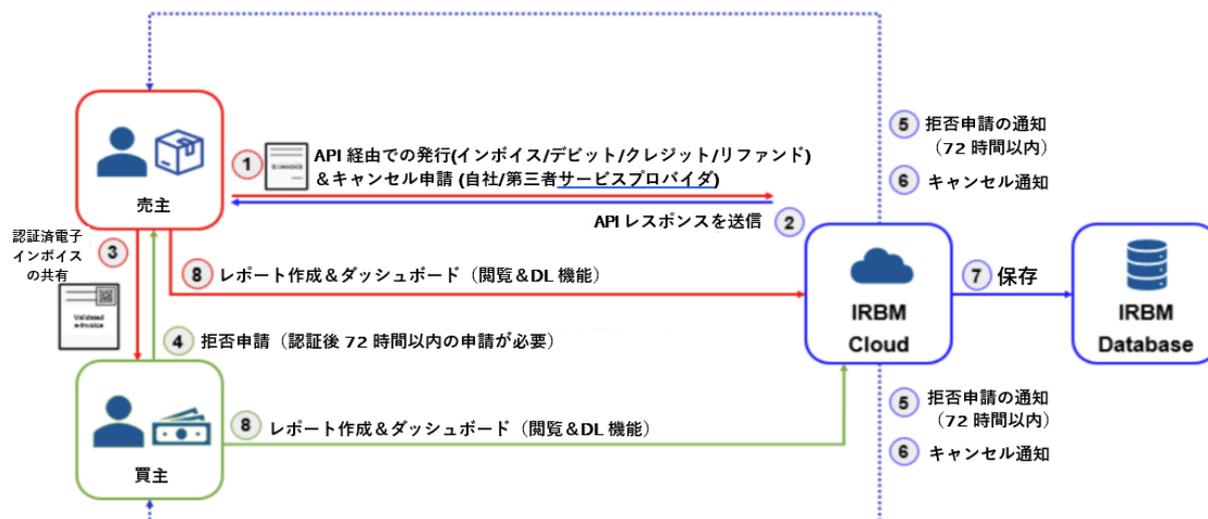
電子インボイスを発行するためには政府の電子インボイスシステムにアクセスする必要があります。また、そのアクセスの仕方には二つの方法があります。一つは IRB の MyInvois ポータル*1 を利用する方法、そしてもう一つは現在使用している社内システムとの API 連携を使用する方法で、そのいずれかを選択することが可能です。

a) 電子インボイスシステムのメカニズム (MyInvois ポータル経由)



*1MyInvois ポータルのプラットフォームは、IRB によって無償で提供されている電子インボイスを発行するためのソリューションであり、全ての事業者（売主）が利用可能です。

b) 電子インボイスシステムのメカニズム（Application Programming Interface（API）連携）



API 連携により、法人の社内システムと IRB の MyInvois システムとの間でデータを直接送受信することができます。API 経由で電子インボイスのデータを送受信する方法は、次の三つの方法があります：

- i) 法人の社内 ERP システムと MyInvois システムを直接連携する
- ii) PEPPOL サービスプロバイダーを利用する
- iii) 非 PEPPOL サービスプロバイダーを利用する

マレーシアでの電子インボイス制度のプロセス

プロセス	詳細
電子インボイスの発行	MyInvois ポータル経由、またはサードパーティの電子インボイスソフトウェア（API）を通じて、IRB に電子インボイスを提出します。
認証及び認証通知	IRB は特定の認証チェックを実行し、ほぼリアルタイムで買主と売主に認証済みの電子インボイスを通知します。認証済みの電子インボイスには、ユニーク識別番号、認証日時、および認証リンクが割り当てられます。
電子インボイスの共有	売主は、QR コードが記載された認証済み電子インボイスを買主に共有します。
取引の拒否及びキャンセル	電子インボイスに対する拒否（買主側）およびキャンセル（売主側）等のオプションの要求は、IRB からの認証通知後 72 時間以内に行う必要があります。この期限を過ぎると、このインボイスは有効と見なされ、拒否やキャンセルができなくなります。72 時間後に発行済み電子インボイスに関する訂正や修正を行いたい場合は、クレジットノート、デビットノート、またはリファンドノートを通じて行う必要があります。